2024-25 年度【ガバナー／大橋　聡司】

高 岡 ロータリークラブ

会長／田中　哲　幹事／山口　洋祐

第 3483回

2024／11／7

No.18

例会日：木曜日 12:30～13:30　創立：１９５１／１１／１５　チャーターナイト：１９５2)／４／１５　創立順位：No.68

司　会　車 会場監督　点　鐘　田中 会長

国歌斉唱

ロータリーの目的／四つのテスト

ゲスト並びにビジター紹介

〔ゲスト〕

ジェック経営コンサルタント顧問　　稲田 祐治 様

〔ビジター〕

地区米山記念奨学会委員長　松崎　秀規　（金沢 RC）

〔交換留学生〕

ジェームス トーマス ビドル　君

会長挨拶／報告

■誕生祝

島　　尚之　さん（11／8・56 才）

■皆出席表彰

永田　義邦　さん（43 年）

藤田　益一　さん（31 年）

加藤　一博　さん（28 年）

河村　拓栄　さん（27 年）

板谷　　聡　さん（20 年）

■米山奨学会より感謝状

第 12 回　米山功労者　若野　恒彦　さん

■交換留学生ジェームズ君におこづかいのお渡し

…一言挨拶

幹事報告

■11 月のロータリーレート　1＄＝153 円

■■■

＜プログラム＞

卓話

「鉄軌道を生かした地域づくり　」

稲田祐治様

　人口減少時代に持続可能な地域づくりを進めるには、観光客に頼らざるを得ない。高岡の魅力を発信し、人を呼び込むことがカギになる。県西部の観光の優位性として、新幹線新高岡駅、世界遺産の五箇山、イオンモール高岡、伝統産業、地域鉄道の存在などを挙げたい。イオンはおみやげを売る場所ではないと思うかもしれないが、最近の外国人観光客はイオンやユニクロで買い物を楽しむ。北陸最大級のイオンモール高岡は今後とも観光客のニーズに応えていくことができる可能性を秘めている。

　こうした強みをもっと活かして観光資源の魅力を磨き、アクセスを改善する。SNS を活用して情報発信を強化することも重要だ。今の鉄道を守り、より便利にすることも大事になる。鉄道利用者を増やすには、直通運転、新駅の建設、車両のイメージアップなどの方策が考えられる。あいの風とやま鉄道、氷見線、城端線、万葉線の相互乗り入れは、線路の延伸と同じ効果が期待できる。直通化すると、富山―城端は 25 分ほど短縮されて 60 分で結ばれる。小杉―新高岡は 20 分短縮の 12 分、氷見線の乗り入れで能町―新高岡は 10 分あまり短縮の 14 分となる。

　今後の施策として、鉄軌道の直通化と合わせ、新高岡駅を鉄道ターミナルにすることを提言したい。氷見線は高岡市民病院前に新駅を建設し、伏木駅の名称を伏木勝興寺駅に変更してはどうか。城端線には瑞龍寺、スポーツコア、砺波チューリップ公園などに新駅の建設が見込まれる。駅名は城端を城端世界遺産口、油田を三郎丸醸造所前などに変更したらいい。新駅の整備や駅名変更はＩＣカード導入と同時に行うことが必要だ。万葉線は氷見線に乗り入れ、高岡駅を経由して新高岡駅まで乗り入れるべきだ。技術的には決してできないことではない。山町筋、金屋町、横田方面への延伸なども検討すべきだろう。

　高岡を観光の拠点にするには、リゾートホテルなどの宿泊施設が必要。これができれば、金沢や飛騨高山と連携して大規模な観光戦略が展開できるのではないか。高岡は観光拠点として大きなポテンシャルを持っていると確信している。交通アクセスの改善や鉄道インフラの整備を通じて、この地域の未来を明るくすることができる。高岡市はその中心に立つべきだ。

＜11/6　4 番テーブルミーティング＞

伏木の貸席「近藤」

＜11/14 1 番テーブルミーティング＞

「魚人」